

最新の情報

2010年7月18日 アシェル・イントレーター

結婚式

今週の木曜日の7月22日は、リバイブ・イスラエルのチームメンバーであり、親愛なる友人の結婚式の日です。まだ、イエシュアをメシアとして受け入れていない多くの家族や友人たちが参加しますので、私たちは、このすばらしいお二人の、主の御前で公に愛を誓い契約を交わす際に、聖霊のご臨在によって参加者が祝福を受けるよう、祈っています。

カツイル

カツイル会議は進んでおり、参加している多くのイスラエル人の若者は主と出会うことに熱心であり、渇いています。一方である者は主と出会うのは初めてという人もいます。今週アシェルが会議で語ります。イエシュアの御体の大部分を占めるようになる、来るべき世代として、主がご自身の霊をこの国の若者たちに注がれるよう、私たちは祈っています。

アシェルの新しい本

長い空白期間を経て、アシェルは新しい本を書きました！彼の最新の本は最後の編集段階にあり、完成まであと一歩です。この本の強力なメッセージが読者にインパクトを与えるように祈っています。以下に短いですが一部を紹介し、このテーマについてどういうものかを分かって頂けると幸いです。

アブラハムと食事したのは誰？

アシェル イントレーター

第一章

ユダヤ教で最も一般的な信条の一つは、神を見ることは不可能である、というものです。ラムバン（注）の信仰における13の基礎原則や、よく知られている「イグダル」祈禱賛美に、このような言葉があります。

注：ラムバン（あるいはランバン Ramban）：ナフマニデス（Rabbi Moses ben Nachman Girondi）1194年–1270年。スペインのギロナ生まれのユダヤ人哲学者、スルタン付きの宮廷医、聖書解説者、そしてカバラ学者。彼が記した「信仰における13の基礎原則」はユダヤ教の基礎を成すものとして広く受け入れられている。

גוף לו ואין הגוף דמות לו אין

「神には体の形がなく、体もない」

このような思想は申命記 4:12 に由来します。

主は火の中から、あなたがたに語られた。あなたがたはことばの声を聞いたが、御姿は見なかった。御声だけであった。

קול זולתי רואים אינכם ותמונה שומעים אתם דברים קול האש מתוך אליכם יהוה ידברו .

(11: ד' דברים)

しかし、この節には神には形がない、ということは述べられていません。シナイにいた人々はどのような形も見なかったと述べられています。この節には神の可視性について何も言っていないのです。これは、刻まれた像や偶像を礼拝することに対する警告なのです(15~23 節)。

神を見ることは不可能であるという考えは、部分的に正しいが、部分的に誤りです。神の不可視性については新約聖書にも何度も述べられています。

ヨハネ 1:18 - いまだかつて神を見た者はいない。

ヨハネ 5:37 - まだ一度もその御声を聞いたこともなく、御姿を見たこともありません。

ヨハネ 6:46 - だれも神を見た者はありません。

コロサイ 1:15 - 御子は、見えない神のかたちであり、造られたすべてのものより先に生まれた方です。

1テモテ 1:17 - 世々の王、すなわち、滅びることなく、目に見えない唯一の神に、

1テモテ 6:16 - 人間がだれひとり見たことのない、また見ることのできない方です。

1ヨハネ 4:12 - いまだかつて、だれも神を見た者はありません。

1ヨハネ 4:20 - 目に見える兄弟を愛していない者に、目に見えない神を愛することはできません。

これらすべての節から、人々がなぜ神を見るのは不可能であると考えられるのを理解するのは易しい。しかし、文脈をよく見ていくと別の絵が浮かび上がってきます。普段神を見ることのできないという事実は、主は不可視であるという意味ではありません。むしろ、私たちの墜ちた状態ゆえに、主を見る

ことができないのであり、もし私たちが主を見たならば、主の力が巨大であるゆえ、それは私たちを殺してしまうのです。(出エジプト 33:20)。これについては第二部で詳細に検討します。

一方で、神を見ることは不可能です。もう一方で、私たちの父祖や預言者は実際「何か」を時々見ました。アブラハムはこの「何か」を何度か見ました。

創世記 12:7 – そのころ、主がアブラムに現われ、

אברם-אל יהוה ויירא ...

創世記 15:1 – 主のことばが幻のうちにアブラムに臨み、

במחזה אברם-אל יהוה-דבר היה

創世記 17:1 – 主はアブラムに現われ、

אברם-אל יהוה ויירא

創世記 18:1 – 主はマムレの樫の木のそばで、アブラハムに現われた。

חמרא באלוני יהוה אליו ויירא

上記の節で「現れた」という言葉はヘブライ語では「見る」という動詞の受動態です。これは、アブラハムが何かを見たと明らかに意味し、「アブラハムによって見られた」とも訳すことができます。

最初の3つの出来事では、アブラハムが見たものは誰で、何だったのか説明がありませんでした。しかし、18章では、その説明は詳細で具体的です。大学の教授やラビ伝承の解説者は非常に長々と、この章は文字通り受け取ることはできないし、そのままの意味(בפשוט)で理解すべきではないと語っています。しかし、この文章は明確でその説明の詳細はかなり身体的です。

驚くべき、そして回避できない真実は、YHVH ご自身が人の形を取ってアブラハムの元へ来たのです。主はアブラハムと昼食を食べ、いくつかの重要な問題について語り合いました。それは、来るべきサラの妊娠や、差し迫ったソドムの崩壊です。(どうか時間を取って創世記 18章全体を読み、私たちが分析したように聖書を辿ってみてください。)